

# グリーンインフラ産業展

## 2025年大阪・関西万博フォーラム

# 会場デザインが示す「いのち輝く未来社会」

モノづくり日本会議は2月1日、東京・有明の東京ビッグサイトで「2025年大阪・関西万博フォーラム 会場デザインが示す『いのち輝く未来社会』」を開催し、オンラインでも配信した。グリーンインフラに関する技術・製品、サービスを一挙に紹介する展示会「グリーンインフラ産業展2023」の関連イベントで、2025年日本国際博覧会協会、日刊工業新聞社との共催。万博会場などのようにグリーンインフラが展開されるのか、会場デザインとまちづくりの観点から紹介した。

### 大阪・関西万博 会場デザインについて

大阪・関西万博はリング状の大屋根が会場構成の中心となっている。万博のメッセをしっかりと発信できるよう分かりやすい形を取り入れた。大屋根は直径(内径)が約615メートル(約2000フィート)あり、会場内は約1.5メートルの幅があり、リングから各パビリオンにアクセスできる。同時に雨や夏の強い日差しから来場者を守る。万博ではテーマの「いのち輝く未来社会」のデザイン「静けさの森」を設ける。今までの万博は人工物を多く建設してきたが、自然と建築の関係をしっかりと作り出す。来場者は、にぎやかな会場を離れて静かな時間を体験できる。



大阪・関西万博会場デザインプロデューサー 藤本 壮介氏

大阪・関西万博会場デザインプロデューサー

藤本 壮介氏

## 命と多様性のメッセージ 広く発信

「静けさの森」から「つながりの海」のある南に向かうと、日本を代表するクリエイター8人が手がけるシグネチャーパビリオンがある。森だけではなく、会場内には緑が常にある。グリーンインフラについては、忽那氏が語りデザインしてきた。大屋根のリングは木造で、高い部分で高さが22メートル。日本の伝統的な建築の工法を基に、しっかりと強度が出るようにする。新しい時代の木造のあり方を発信できることと見ていた。大屋根の幅は約30メートルあり、トランプライティングで光の満ちた空間に人々が行き交う。会期後は木材のリユース、リサイクルを検討している。大屋根の上は空を見上げる空間になる。多様でありながら、世界中が一つのもの共有している場所。この大きな空を会場の中心に据えたい。リングの外側が高層海や大阪市街が見える。その間には屋上緑化の手法を取り入れ、草花を植えて季節の変化を感じてもらえるようにする。1970年の大阪万博では「太陽の塔」が立つ「お祭り広場」に大屋根があった。大屋根は科学技術の粋を尽くしたものであったが、太陽の塔が「命こそ大切」との考えを示し、これが前回の万博の世界観を作っている。今は自然と共生する時代となった。今度はグリーンインフラを主役に緑あふれる万博で未来を形作ってきた。

## 大阪・関西万博会場デザインと、アフターEXPOのまちづくり

大阪・関西万博ランドスケープデザインディレクター 忽那 裕樹氏



大阪・関西万博の会場のデザインディレクターを務めている。また「まちごと万博」という会場外のまちづくりにも取り組んでいる。訪れる人がその場所を楽しみ、くつろぎたい、それが積み重ねることによって街の魅力につながる。それはグリーンインフラのような空間に可能性があると思っている。これまで「水都大阪」のプロデュースなどにかかわってきた。人と自然がつながる場所として、グリーンインフラの環境を作っていく。自然の設備や機能を社会やまちづくりに生かしていくのがグリーンインフラの基本。行政だけでなく、市民や企業と一緒に実現を目指していくべきだ。大阪は海を埋め立てて、水と緑のネットワークをうまく使いながら都市化していった。1970年の大阪万博の跡地に森がある。森の環境整備で間伐した木などを組み合わせて、2025年大阪・関西万博の「静けさの森」を造る予定だ。

## 閉会後も森を残し心のインフラに

大阪・関西万博では会場全体を一つの海に見立て、瀬戸内の島々をイメージしたデザインを考えている。土壌対策の関係上、土を盛り上げないと木が植えられない。それを島に見立てる。森は閉会後も残したい。自然の草花で四季を感じられるようにしていく。水都大阪と言われた川の風景を取り戻すため、大阪府・市などは水と光のまちづくり構想を策定し、水と緑の空間に人がかかわる取り組みを行ってきた。同時に私が理事を務めた中間支援組織がグリーンインフラ化などのビッグプロジェクトを掲げ、社会実験や事業化に取り組んできた。私たちがかわった舟運の活性化では年間20万人だった利用客がグリーンインフラ同士でネットワークで18年に180万人まで増えた。85年前に道幅44メートルで拡張した御堂筋は37年に完成から100周年を迎える。その際に道路自体をグリーンインフラ化して公園にする。25年までに側道を歩道化する予定で、カフェやアート展示などの社会実験を行っている。大阪の都市をオープンスペースネットワークに見立て「大阪グリーンアロー」の構想を考えた。それぞれの地域でグリーンインフラの小さなきっかけを作り、グリーンインフラを心のインフラにしていきたい。

## 心身のパフォーマンスを高める 睡眠改善セミナー

今話題の睡眠！経営者・人事が知っておくべき3つのポイント

モノづくり日本会議は2月22日、特別講演会「心身のパフォーマンスを高める睡眠改善セミナー」今話題の睡眠！経営者・人事が知っておくべき3つのポイント」を開催した。Lifree(ライフリー、東京都品川区)のサトウ未来代表取締役が「なぜ今、ビジネスパーソンに睡眠が必要なのかを説き、今日から取り組める睡眠改善方法を解説した。

### 特別講演会



Lifree 代表取締役 快眠コーチ サトウ 未来氏

睡眠不足がもたらす日本の経済損失額は1兆円と言われ、睡眠サポートなどの市場が拡大している。睡眠不足になると病気を患うリスク、人間関係の悪化、うつ病などのリスクが生じる可能性があるが出てくる。一方、日本は睡眠し

## 取り組みやすい改善方法で成果

時間座って仕事する人も多く、体を動かさないため寝つきも悪くなる。厚生労働省によると、働き方改革で残業時間が減る一方、睡眠で休養が十分に取れない人の割合が増加。限られた時間で成果を出さなければいけないというストレスから、うつ病の発症による休職者も増加している。近年は健康経営に取り組み企業が増えている。中でも睡眠改善のサポートは社員、会社、社会にとつて「三方よし」につながる。社員が楽しく睡眠改善に取り組むため、自分の手をつけやすいジャンルを選ぶことなどが重要なカギとなる。そこで今日から取り組める5つの改善方法を提案し

## モノづくり日本会議 主な行事

「未来モノづくり国際EXPO2023」で製造業トップ講演会  
モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は5月10日13時半から「未来モノづくり国際EXPO2023」で、製造業トップによる講演会「未来を創るカンパニー 社会課題解決に向けた取り組み」を開催する。会場はインテックス大阪(大阪市住之江区)1号館内メインステージ。定員は200人。事前登録制で聴講料無料。フナックの山口賢治社長が「製造現場に導入しやすい自動化を目指して『人・機械・ロボット』が連携する世界の実現」、日立製作所の東原昭敬会長が「資源循環社会の実現に向けた日立の取り組み」と題して講演する。

「ハノーバーメッセ2023」視察から見てきた製造業の課題  
モノづくり日本会議は、5月18日14時からオンラインセミナー「ハノーバーメッセ2023から見てきたこと サステナブルやレジリエンス重視への転換」を開く。講師は東芝 デジタルイノベーションテクノロジーセンター チーフエバンジェリスト(アルファコンパス代表)の福本勲氏。参加無料。世界最大級の産業技術見本市「ハノーバーメッセ」はドイツ・ハノーバーで毎年開催される。今年は4月17日から21日まで。ハノーバーメッセの現地視察から見てきた製造業の課題、これから目指すべきことなどについて講演する。

モノづくり日本会議

## 第20回 超モノづくり 部品大賞

### モノづくりを変える/支える 部品・部材を募集!

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、日本のモノづくりの基盤を支える部品・部材を対象にした「超モノづくり部品大賞」を実施しています。

日本の産業界には、災害に強い国土の形成や環境・エネルギー問題の解決、さらなる顧客満足度の向上などに向けて、新たなモノづくりが求められています。技術革新や新市場創造には、優れた部品・部材が欠かせません。日本のモノづくりに寄与する卓越した部品・部材を広く募集します。

募集期間

2023年3月1日~7月14日

応募方法

本賞の専用ホームページ (https://award.cho-monodzukuri.jp/) から、候補申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、メールもしくは郵送で事務局宛にご提出ください。

表彰対象

機械・ロボット 電気・電子 モビリティ関連 環境・資源・エネルギー関連  
健康福祉・バイオ・医療機器 生活・社会課題ソリューション関連

発表

2023年10月に、日刊工業新聞と日刊工業新聞電子版、モノづくり日本会議ホームページで発表予定

表彰

優秀部品30件程度に「部品賞」を授与し、副賞を贈呈します。  
「部品賞」の中で、特に優秀と認められたものには「部品大賞」を贈ります。  
「部品大賞」には賞金30万円、「部品賞」には賞金10万円を副賞として贈呈します。  
「部品大賞」など特に優れた部品を対象に、開発企業の思いや部品の特徴を紹介する映像を作成し、贈賞式などで上映します。

お問い合わせ

モノづくり日本会議 超モノづくり部品大賞 事務局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (日刊工業新聞社内)  
TEL.03-5644-7608 e-mail:buhin@nikkan.tech

https://award.cho-monodzukuri.jp 部品大賞